

介護ソフトと生成AIの活用

事業所概要

- ・事業所名：デイサービスついでの家
- ・サービス種別：（定員：18人）
- ・介護職員数：8人（常勤 3名・非常勤 5名）
- ・プロジェクトメンバーの構成：主任介護職員、生活相談員、事務長

取組に至った背景

- 以前から介護記録や報告書等は手書きであり事務業務が圧迫していた。
- 月末、ケアマネジャーへの報告書作成（手書き）に非常に時間がかかっていた。
- 介護ソフトやタブレットは導入されていたが活用できていなかった。

課題解決のプロセス

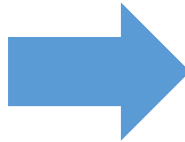
Step1

介護ソフト活用

- ・導入済の介護ソフトの活用内容を介護ソフト会社に確認

生成AI活用

- ・報告書作成のための下書きを簡条書きに変更



取組効果

【質的な効果】

- ・2度手間3度手間が解消されたことで、介護職員のストレスが軽減された。
- ・手書きしている時間が短縮されたことで利用者との対話が増えた。

同様の取組を検討している事業所へのアドバイス

- ・「どの業務を短縮すべきか」を明確にする。
- ・小さな改善の積み重ねで十分に効果が出る。
- ・小規模事業所だからこそ、職員への横展開もしやすく効果も出やすいというメリット
- ・小さな成功体験を積むことで、職員のモチベーションアップになりケアプランデータ連携システムについてもまずは法人内で実施検討するきっかけとなった。

※取組時のポイント・工夫※

(1)手書きの介護記録

アドバイザーから長い文章を簡条書きに変更することと生成AIの活用の提案を受けた。

(2)まずは介護リーダーが試行

職員は生成AIを活用したことがなかったため、まずは介護リーダーから試行し横展開していくことにした。

(3)事業所内で活用できるICTがないか再確認する

既存のICTで活用できるものがないか確認することが大事。

Step2

介護ソフト活用

- ・デイサービス利用当日の出欠と入浴有無チェックを一括入力できることが分かりスタッフ全員入力開始
- ・音声入力機能があることが分かり、介護リーダーから音声入力開始（その後、随時スタッフ全員が音声入力する予定）

生成AI活用

- ・報告書作成のための簡条書きを生成AIで文章化し、内容を確認・修正のうえ、報告書に引用

【量的な効果】

①毎月1回ケアマネジャーへの報告書作成時間

利用者：約13名～17名

一人あたり約30分 → 約20分 **1か月あたり130分～170分短縮**

②手書きの介護記録を文章から簡条書きに変更

1日あたり約60分 → 約30分

1か月あたり約750分短縮

③タブレット入力（出欠・入浴チェック）

1日あたり約10分 → 5分

1か月あたり120分短縮